

第26期コースご案内

(1) 聖書と日本語

司祭 トマス 吉田 仁志

聖書の新しい日本語訳として「聖書協会共同訳」が2018年に出版されました。これは従来の「新共同訳」の後継として翻訳されたものであり、すでに試験的に用いられている教会もあるかと思えます。

新しい翻訳を見てみますと、今までのものと、ほとんど一緒に見える箇所もありますが、大きく変わっているところも少なくありません。一例として挙げられるのが、「私」という漢字です。今まで「わたし」と訳されていたものが「私」と訳されるようになったのです。わたしとしてはこの変更には少なくない違和感があるのです。新共同訳では「わたくし」とルビが振られている場合のみ、「私」という漢字が用いられていました。けれども、新しい翻訳ではことごとく「私」となっているのです。「わたし」と「私」では受ける印象が相当違うのではないのでしょうか。

キリスト教が日本へと伝えられて以来、聖書の翻訳は様々な試行錯誤の中で行われてきました。今までの日本には存在しなかった新しい教えを伝えるため、先人たちはいろいろな創意工夫を行ってきたのです。今回の講座では、そのような歴史も踏まえ、聖書とその翻訳に用いられた日本語に注目しつつ、多角的にみ言葉を受け止めたいと思います。そして、みなさんのご意見も伺いながら、共に新たな気づきを与えられることを期待しています。新たな発見によって、神さまはきっと、わたしたちの信仰を増し加えてくださることでありましょう。

肩に力が入った難しいお勉強ではなく、「みなさんと一緒に聖書を味わう」、そんな講座になれば幸いです。

(八日市場聖三一教会 牧師)

(2) 聖公会とケルトの伝統

司祭 パウロ 窪田真人

＊聖公会の源流であるケルトの伝統について学ぶ

今期、初めて信徒神学校の講師を務めることになりました。今回、皆様と一緒に学びを深めて参りたい内容は「聖公会とケルトの伝統」についてです。

16世紀、ヨーロッパを中心に宗教改革の波が起こりました。

聖公会の歴史を紐解いていけば、いわゆるヘンリー8世の離婚問題をきっかけとする宗教改革によって、ローマ・カトリック教会から分かれ、イングランド国教会を設立したという流れが一般的となります。しかし、歴史を紐解いていけば、その源流であるケルトの伝統の流れを汲んでいることに注目しないわけにはいきません。

そこで、第26期の信徒神学校として、この講座では聖公会という教会を育んだイングランド・ブリテン諸島（イングランド、アイルランド、スコットランド、ウェールズ）における古代から脈々と続くさまざまな伝統や霊性に目を向け、時には神話についても触れつつ、聖公会の源流を探る旅を歩んで参りたいと思います。

(沼津聖ヨハネ教会牧師)

(伊豆聖マリヤ教会管理牧師)

第 26 期信徒神学校へのお誘いー皆さんも受けてみませんか

校長 マルコ 平岡義和

新型コロナの影響に悩まされる毎日ですが、主にある平安をお祈り申し上げます。

今年も、多くの聖職、信徒の皆さまのお支えのもと、信徒神学校がスタートする時期を迎えました。

新型コロナのために外出を控えておられる方も多いかと思いますが、空いた時間で信徒神学校の通信講座を受講してみませんか。私自身かれこれ6年にわたって様々なテーマの講座を受講してきましたが、毎年思わぬ気づきを与えられ、足らざる信仰の養いになっていると実感しています。毎年受講されてきた方だけでなく、これまで受講されていなかった方が新らしく講座に加わることをお待ちしております。

さて、今回の第26期は、新進の講師による2つの講座が設けられています。一つは、古代から脈々と続くケルトの伝統や靈性に目を向け、聖公会の源流を探る窪田真人司祭の講座です。もう一つは、これまでの聖書の翻訳において用いられてきた日本語に注目しつつ聖書のみ言葉を味わおうという吉田仁志司祭の講座です。

講座では、毎回提出したレポートを添削してもらえただけでなく、講師から直接話をうかがうスクーリングの機会が設けられています。また、スクーリングに際しては、教会音楽の専門家である立教大学のスコット・ショウ先生から、礼拝で歌うことの意味についてお話いただく特別講演が予定されています(25期から延期されました)。コロナの影響で何とも言えないところがありますが、今のところ来年2~3月に行うことにしています。こちらにも楽しみにしてください。

今期も多くの方々を受講していただければと、スタッフ一同願っています。

(静岡聖ペテロ教会信徒)

信徒神学校のお勧め

主教 イグナシオ 入江 修

†主にある平安をお祈りいたします。

コロナ禍の中、いかがお過ごしでしょうか。どうぞお大事になさってください。

今年も、皆さまに信徒神学校の新期開講をご案内する期節となりました。信徒神学校の特徴は、講師が作成したテキストを介して講師と受講者が直接やり取りできることです。そして、講師から受講者への一方的な流れではなく、講師もまた、受講者の皆さんのレポートを通じてフィードバックを受け、多くの学びや気づきを与えられて参ります。

第26期が開講されることに感謝です。今期は、吉田仁志司祭による「聖書と日本語」と窪田真人司祭による「聖公会とケルトの伝統」の二つの講座です。

また、コロナ禍で今年中止となりましたスクーリングと特別講演会は来年2021年3月頃に、今年の計画同様、立教大学教授スコット・ショウ氏をお招きして教会音楽に関するお話をお聞きすることになっています。

第26期信徒神学校の受講が皆さまの信仰のよき糧となり、真理への理解がより深められてゆくよい機会となりますことを願っております。

主にありて

10月1日 開講

期 間：2020年10月1日~2021年5月31日

講座形態：1か月に1回(全6回)講座テキストを送付します。レポートを返送する通信方式。
3回以上のレポート提出をお願いいたします。

スクーリング：期間内に開催。第26期は
2021年3月20日(土) 開催予定

受講料：1講座 6,000円
テキスト代、発送費、スクーリング代を含みます。
レポート送料は受講者負担となります。

受講申込：「信徒神学校受講申込」(別添葉書)
もしくはFAX・メールにて必要事項を記入し
下記へお送りください。
〒221-0852 横浜市神奈川区三ツ沢下町14-57
横浜教区教務所内 信徒神学校事務局
TEL：045-321-4988 FAX：045-321-4978
E-Mail：shuumu@anglican.yokohama

申込締切：2020年9月15日(火)
(途中でも希望があれば申込を受けつけます)
費用支払：申込を頂きますと受講料のご案内と郵便振替用紙をお送り致します。郵便局より振込んで下さい。

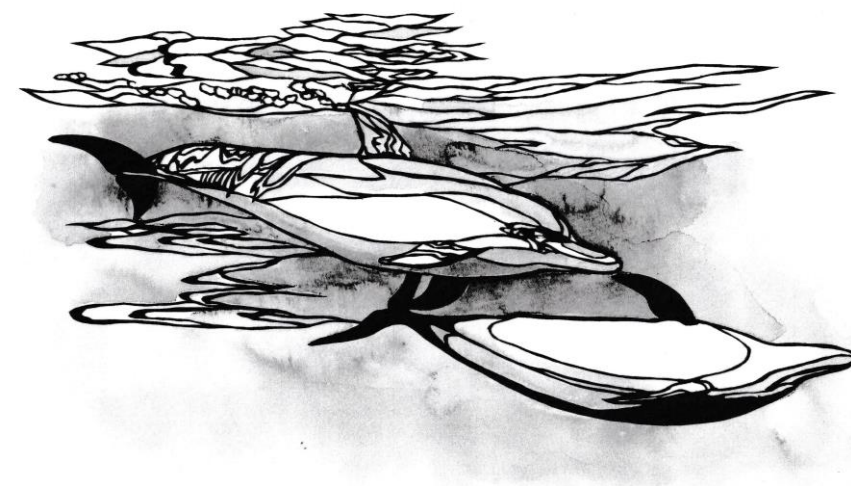
信徒神学校スタッフ

校長	マルコ	平岡	義和
チャプレン	司祭 バルナバ	田澤	利之
教育主事	司祭 サムエル	小林	祐二
スタッフ			
	ヨセフ 舘野 裕之	ペテロ	高橋 紀道
	セシリヤ 富安 厚子	ヨセフ	和田 實

第26期
2020年10月~2021年5月

信徒神学校

通信教育講座の受講案内



切り絵：青木 亜矢さん(藤沢聖マルコ教会)